

令和6年度

事業報告書



学校法人 行吉学園

目 次

I 法人の概要	1
1 基本情報	1
2 建学の精神・教育綱領	1
3 法人の沿革	2
4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和6年5月1日現在）	3
5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率（過去5年間）	4
6 教職員数の推移（過去5年間）	4
7 役員の概要（令和6年7月1日現在）	5
8 評議員の概要（令和6年7月1日現在）	6
9 理事会・評議員会の開催状況（令和6年度）	7
10 施設等の状況（令和7年3月31日現在）	9
11 法人組織構成図（令和6年4月1日現在）	10
II 事業の概要	12
1 主な教育・研究の概要	12
（1）卒業の認定に関する方針	12
（2）教育課程の編成及び実施に関する方針	12
（3）入学者の受入れに関する方針	12
2 中期目標・中期計画に基づく令和6年度の行動計画進捗報告	12
I 教育・研究の充実	12
II 学生支援の充実	14
III 社会連携の充実	17
IV DXの推進	19
V 広報・募集力の強化	21
3 特記事項	23
（1）卒業者・修了者数の状況	23
（2）国家試験の受験・合格状況	24
（3）学習支援センター等	24
（4）国際交流事業	25
（5）図書館	27
（6）研究	29
（7）古典芸能研究センター	30
（8）学生	31
（9）保健室・学生相談室・学生支援センター	34
（10）教職支援	35
（11）就職支援	37
（12）入試広報	37
（13）収益的事業	38
（14）幼稚園	38

目 次

Ⅲ 財務の概要	4 0
1 決算の概要	4 0
（1）貸借対照表関係	4 0
（2）資金収支計算書関係	4 0
（3）事業活動収支計算書関係	4 2
2 その他	4 3
（1）有価証券の状況	4 3
（2）借入金の状況	4 3
（3）学校債の状況	4 3
（4）寄付金の状況	4 3
（5）補助金の状況	4 4
（6）収益事業の状況	4 4
（7）関連当事者との取引の状況	4 4
（8）学校法人間財務取引	4 4
3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	4 4

I 法人の概要

1 基本情報

- (1) 法人の名称 がっこうほうじんゆきよしがくえん
学校法人行吉学園
- (2) 主たる事務所 兵庫県神戸市中央区港島中町四丁目7番2号
代表電話番号 078 (303) 4700
ホームページ <https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

2 建学の精神・教育綱領

建学の精神

本学園の教育は 民主的で文化的な国家を建設して 世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある そのためには 人格の完成をめざし 平和的な国家および社会の形成者として 真理と正義を愛し 個人の価値をたっとび 勤労と責任を重んじ 自主的精神に充ちた心身ともに 健康な国民の育成に力をつくすにある

教育綱領

学術の研究を通して人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ 識見高く 心情豊かな女性を育てる

個性の伸長をはかり 社会に貢献しうる人材を育てる

勤労を愛し 義務と責任を重んじ 自律的に行動する態度を養う

宗教的情操を培い 謙虚にして愛情深く よく苦難に耐え 常に信念に生きる女性を育てる

明朗にして礼節あり 健康にして柔軟な心身の持ち主となり よく世代を導きうる女性を育てる

3 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
〃 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
〃 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を設置
〃 26 年 2 月	学校法人行吉学園に組織を変更
〃 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を設置
〃 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を設置
〃 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
〃 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を設置
〃 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を設置
〃 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を設置
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を設置
〃	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を設置
〃 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を設置
〃 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を設置
〃	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
〃 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を設置
〃 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を設置
〃 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を設置
〃	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を設置
〃	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
〃	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
〃	神戸新装学院を廃止
〃 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を設置
〃 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
〃 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
〃 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
〃 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
〃 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
〃	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
〃 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
〃 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
〃	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
〃	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置（平成 23 年 3 月廃止）
〃 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
〃 23 年 4 月	社会福祉法人神女さずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
〃 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を設置
〃 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
〃 30 年 4 月	神戸女子大学文学部神戸国際教養学科を国際教養学科に名称変更
〃 31 年 4 月	神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置
令和 3 年 3 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を廃止
〃 3 年 4 月	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
〃 4 年 4 月	神戸女子大学心理学部心理学科を設置
〃 5 年 3 月	神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止

4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和6年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	学部・学科等			入学定員	入学者数	収容定員	現 員	摘 要
神戸女子大学大学院 (昭和 59 年 4 月設置)	家 政 学 研 究 科 (博士課程)	食 物 栄 養 学 専 攻	前 期	8	4	16	8	
			後 期	2	0	6	1	
		生 活 造 形 学 専 攻	前 期	6	1	12	2	
			後 期	2	0	6	0	
		(小 計)			18	5	40	11
	文 学 研 究 科 (博士課程)	日 本 文 学 専 攻	前 期	4	1	8	1	
			後 期	2	0	6	1	
		英 文 学 専 攻	前 期	4	0	8	0	
			後 期	2	0	6	1	
		日 本 史 学 専 攻	前 期	4	2	8	3	
			後 期	2	1	6	1	
		教 育 学 専 攻	前 期	4	0	8	0	
			後 期	2	0	6	2	
	(小 計)			24	4	56	9	
	健 康 栄 養 学 研 究 科 (修士課程)	健 康 栄 養 学 専 攻		4	0	8	6	
	看 護 学 研 究 科 (博士課程)	看 護 学 専 攻	前 期	8	3	16	22	
			後 期	3	3	9	20	
(小 計)		11	6	25	42			
(合 計)				57	16	129	68	
神戸女子大学 (昭和 41 年 4 月設置)	家 政 学 部	家 政 学 科		80	33	320	235	
		管理栄養士養成課程		150	105	620	522	
		(小 計)		230	138	940	757	
	文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科		60	29	240	165	
		英 語 英 米 文 学 科		60	16	240	111	
		国 際 教 養 学 科		60	10	240	109	
		史 学 科		60	19	240	143	
		教 育 学 科		165	73	660	379	
		(小 計)		405	147	1,620	907	
	健 康 福 祉 学 部	社 会 福 祉 学 科		80	38	320	205	
		健康スポーツ栄養学科		80	66	320	251	
		(小 計)		160	104	640	456	
	看 護 学 部	看 護 学 科		90	96	360	379	
	心 理 学 部	心 理 学 科		80	84	240	261	令和 4 年度新設
	(合 計)			965	569	3,800	2,760	
神戸女子短期大学 (昭和 25 年 4 月設置)	幼 児 教 育 学 科			40	29	120	50	令和 6 年度定員変更
	総 合 生 活 学 科			40	52	140	94	令和 6 年度定員変更
	食 物 栄 養 学 科			40	24	100	56	令和 6 年度定員変更
	合 計			120	105	360	200	
幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園				※54	40	170	136	
総 計				1,196	730	4,459	3,164	

* 認定こども園の入学定員欄は5歳児（卒園児）の定員を表す

5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率

(毎年度5月1日現在：人)

区 分			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
大 学 院	家政学研究科	博士前期	10	12	16	12	10
		博士後期	4	3	2	1	1
	文 学 研 究 科	博士前期	4	4	4	3	4
		博士後期	5	6	5	4	5
	健康栄養学研究科	修士課程	8	9	14	14	6
	看護学研究科	博士前期	15	19	19	22	22
		博士後期	8	13	14	17	20
	合 計	博士前期	37(修士を含む)	44(修士を含む)	53(修士を含む)	51(修士を含む)	42(修士を含む)
		博士後期	17	22	21	22	26
	収 容 定 員 充 足 率			42.9%	51.2%	57.4%	56.6%
大 学	家 政 学 部		945	914	878	841	757
	文 学 部		1,703	1,598	1,348	1,113	907
	健 康 福 祉 学 部		594	543	522	484	456
	看 護 学 部		357	353	348	367	379
	心 理 学 部		－	－	81	182	261
	合 計		3,599	3,408	3,177	2,987	2,760
	収 容 定 員 充 足 率		104.0%	97.7%	88.3%	80.7%	72.6%
	学校教育学専攻科		0	0	1	－	－
短期大学	幼 児 教 育 学 科		145	110	84	62	50
	総 合 生 活 学 科		205	174	130	104	94
	食 物 栄 養 学 科		151	117	96	77	56
	合 計		501	401	310	243	200
	収 容 定 員 充 足 率		73.7%	69.1%	64.6%	50.6%	55.5%
幼稚園 (認定こども園)	合 計		158	155	155	146	136
	収 容 定 員 充 足 率		79.0%	96.9%	91.2%	85.9%	80.0%

6 教職員数の推移（過去5年間：毎年5月1日現在）

(単位：人)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
本務教員	神 戸 女 子 大 学	186	182	190	188	190
	神戸女子短期大学	36	34	32	29	30
	高 倉 台 幼 稚 園	13	13	13	12	13
	合 計	235	229	235	229	233
兼務教員	合 計	326	327	327	326	315
本務職員	法 人 本 部	8	9	8	9	10
	神 戸 女 子 大 学	71	74	76	86	78
	神戸女子短期大学	10	7	7	6	5
	高 倉 台 幼 稚 園	3	3	3	4	4
	合 計	92	93	94	105	97
兼務職員	合 計	97	122	135	110	149
本務教職員合計		327	322	329	334	330

* 本務教職員（平均年齢）教員 52.4 歳・職員 48.8 歳、（平均勤続）教員 10.2 年、職員 14.9 年 [令和6年5月1日現在]

7 役員の概要（令和6年7月1日現在）

（1）理 事

[定数：8名 任期：4年]

区 分	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
理事長	多畑 寿城	常 勤	令和4年4月1日 (令和5年7月1日 理事長就任)	
理 事	栗原 伸公	常 勤	平成30年6月29日	神戸女子大学長・神戸女子短期大学長
	三宅 茂夫	常 勤	令和5年7月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
	山西 哲也	常 勤	令和6年4月1日	学校法人行吉学園大学事務局長
	行吉 則子	常 勤	令和6年4月1日	学校法人行吉学園法人事務局総務部総務課長
	今井 修平	非常勤	平成18年4月1日	
	小川 清四郎	※常 勤	平成30年6月29日	
	根岸 成直	※非常勤	平成18年6月29日	

※印：外部理事・非業務執行理事

（2）監 事

[定数：3名 任期：4年]

区 分	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
監 事	横田 成樹	非常勤	平成26年6月29日	
	亀井 尚也	非常勤	平成23年5月27日	弁護士
	打越 信男	非常勤	令和3年6月29日	

（3）責任免除・責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

ア 責任の免除

学校法人行吉学園寄附行為において次のとおり責任の免除等を定めている。

（責任の免除）

第47条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

（責任限度契約）

第48条 理事（理事長又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

イ 責任限定契約

対象役員の氏名	非業務執行理事 根岸 成直 ・ 小川 清四郎 監 事 横田 成樹 ・ 亀井 尚也 ・ 打越 信男
契約内容の概要	非業務執行理事又は監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円と、在職中に学校法人から職務執行の対価として受け、又は受けるべき役員報酬の1年間あたりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額を限度として、損害賠償責任を負うものとする。ただし、損害額のうち責任限度額を上回る部分については当然に免責するものとする。
契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置	契約の内容として、役員が職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めている。

ウ 役員賠償責任保険契約

団体契約者	日本私立大学協会	引受保険会社	東京海上日動火災保険株式会社
被 保 険 者	記名法人……………学校法人行吉学園 個人被保険者……………理事、監事、評議員		
保 険 期 間	2024 年 4 月 1 日（午後 4 時） から 2025 年 4 月 1 日（午後 4 時） まで		
補 償 内 容	(1) 役員（個人被保険者） ……法律上の損害賠償金、争訟費用等 (2) 記名法人……………法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等		
支払いの対象とならない主な場合	・被保険者が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由 ・被保険者の犯罪行為に起因する対象事由 ・法令に違反することを被保険者が認識しながら行った行為に起因する対象事由 等		
総支払限度額	5 億円	保険料負担者	学校法人行吉学園

※当該保険契約の内容は、令和 5 年度第 11 回理事会（令和 6 年 3 月 28 日）決議に基づくものである。

8 評議員の概要（令和 6 年 7 月 1 日現在）

[定数：20 名 任期：4 年]

氏 名	就任年月日	主な現職等
山根 千弘	令和 3 年 4 月 1 日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
洪 愛子	令和 6 年 4 月 1 日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
山西 哲也	令和 6 年 4 月 1 日	(学) 行吉学園大学事務局長
山田 史子	令和 6 年 4 月 1 日	
多田 清隆	令和 5 年 4 月 1 日	(学) 行吉学園法人事務局長
山脇 喜子	平成 30 年 6 月 29 日	
羽多 悦子	平成 30 年 6 月 29 日	
市川 清美	平成 30 年 6 月 29 日	
糸井 亜弥	平成 18 年 6 月 29 日	神戸女子大学准教授
村田 恵子	令和 5 年 7 月 1 日	神戸女子大学准教授
春木 和子	平成 16 年 7 月 29 日	
十一 玲子	平成 14 年 6 月 29 日	神戸女子大学准教授
吉田 幸世	平成 18 年 6 月 29 日	(学) 行吉学園技術職員
行吉 則子	令和 4 年 6 月 29 日	(学) 行吉学園事務職員
森野 茂樹	平成 18 年 6 月 29 日	
今井 修平	平成 18 年 4 月 1 日	
三宅 茂夫	令和 5 年 7 月 1 日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
木村 奈帆子	平成 31 年 4 月 1 日	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長
浅木森 和夫	平成 22 年 6 月 29 日	神戸女子大学特任教授
大西 基司	令和 6 年 6 月 1 日	神戸女子大学教育後援会会長

9 理事会・評議員会の開催状況（令和6年度）

（1）理事会

回数	開催 年月日	主 な 協 議 事 項	出席状況 (定数8名)		
			出 席	欠 席	計
1	令和6年 5月30日 (木)	・評議員会が選任した理事について（報告） ・学園長の辞任について（報告） ・理事の競業について ・退任役員等への功労金、慰労金について ・令和5年度事業報告について ・令和5年度決算について	8	0	8
2	令和6年 5月30日 (木)	・私立学校法の改正に伴う学校法人吉学学園寄附行為の変更について ・令和6年度賞与支給率（学園新生計画の進捗を含む）について ・天神寮売却方針について ・名誉理事長の選任について ・令和6年度入学試験の結果及び令和7年度入学試験等の概要について	8	0	8
3	令和6年 9月26日 (木)	・天神寮の売却について ・令和6年度補正予算について ・行吉学園学生寮規程の一部改正について ・幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員等の変更について ・幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の一部改正について ・大学院（心理学研究科心理学専攻）の設置について ・神戸女子短期大学の現状について ・次期学長に求める職務及び学長像について ・学園新生計画の進捗状況について（報告） ・オープンキャンパスの実施状況について（報告） ・改正私立学校法に向けた今後の対応と進め方について（報告）	7	1	8
4	令和6年 11月21日 (木)	・第1次中期目標・中期計画最終報告について	8	0	8
5	令和6年 11月21日 (木)	・神戸女子大学長及び神戸女子短期大学長の選考について ・常任理事会が公表する神戸女子大学長及び神戸女子短期大学長の略歴、所信及び選考理由について ・神戸女子大学教育学部設置に伴う寄附行為の変更について ・学園新生計画に係る大学、大学院、短大の改編等について ・希望退職者の募集について ・役員等候補者選考会議規程の制定について ・役員等候補者選考会議構成員の選任について ・改正私立学校法に係る内部統制システム整備の基本方針（案）について	8	0	8
6	令和7年 3月25日 (火)	・役員等の辞任について ・理事候補者の選考について ・役員等法輔選考会議における評議員候補者の選考結果について（報告） ・第2次中期計画の2024年度進捗について	6	2	8
7	令和7年 3月25日 (火)	・令和6年度補正予算について ・令和7年度事業計画について ・令和7年度賞与支給率について ・令和7年度予算について ・私立大学ガバナンス・コード＜第2.0版＞（コンプライ・オア・エクスプレイン方式）の受入れについて ・内部統制システム整備の基本方針について ・学園諸規程の一部改正等について ・役員賠償責任保険契約等の締結について ・令和7年度第1回評議員会の招集について ・令和7年度入学試験の結果について（報告） ・学園新生計画の進捗状況（希望退職の募集結果を含む）について（報告） ・教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告）	6	2	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主 な 協 議 事 項	出席状況 (定数 20 名)		
			出席	欠席	計
1	令和 6 年 4 月 1 日 (月)	・ 評議員である理事の選任について	20	0	20
2	令和 6 年 5 月 30 日 (木)	・ 私立学校法の改正に伴う学校法人吉学園寄附行為の変更について ・ 令和 6 年度賞与支給率（学園新生計画の進捗を含む）について ・ 天神寮売却方針について ・ 名誉理事長の選任に伴う意見聴取について ・ 令和 5 年度事業報告について（報告） ・ 令和 5 年度決算について（報告） ・ 令和 6 年度入学試験の結果及び令和 7 年度入学試験の概要について	15	5	20
3	令和 6 年 9 月 26 日 (木)	・ 天神寮の売却について ・ 令和 6 年度補正予算について ・ 行吉学園学生寮規程の一部改正につて ・ 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員等の変更について ・ 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の一部改正について ・ 大学院（心理学研究科心理学専攻）の設置について ・ 神戸女子短期大学の現状について ・ 学園新生計画の進捗状況について（報告） ・ オープンキャンパスの実施状況について（報告） ・ 改正私立学校法に向けた今後の対応を進め方について（報告）	19	1	20
4	令和 6 年 11 月 21 日 (木)	・ 常任理事会が推薦する学長候補者について ・ 神戸女子大学教育学部設置に伴う寄附行為の変更について ・ 学園新生計画に係る大学、大学院、短大の改編等について ・ 希望退職者の募集について ・ 役員等候補者選考会議規程の制定について ・ 役員等候補者選考会議構成員の選任について ・ 第 1 次中期目標・中期計画最終報告について ・ 改正私立学校法に係る内部統制システム整備の基本方針（案）について	19 うち書面 出席 5	1	20
5	令和 7 年 3 月 25 日 (火)	・ 役員等の辞任について（報告） ・ 理事候補者の選考結果について（報告） ・ 第 2 次中期計画の 2024 年度進捗について（報告） ・ 令和 6 年度補正予算について ・ 令和 7 年度事業計画について ・ 令和 7 年度賞与支給率について ・ 令和 7 年度予算について ・ 私立大学ガバナンス・コード＜第 2.0 版＞（コンプライ・オア・エクスプレイン方式）の受入れについて ・ 内部統制システム整備の基本方針について ・ 学園諸規程の一部改正等について ・ 役員賠償責任保険契約等の締結について ・ 令和 7 年度入学試験の結果について（報告） ・ 学園新生計画の進捗状況（希望退職の募集結果を含む）について（報告） ・ 教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告）	19	1	20

10 施設等の状況（令和7年3月31日現在）

（1）土 地

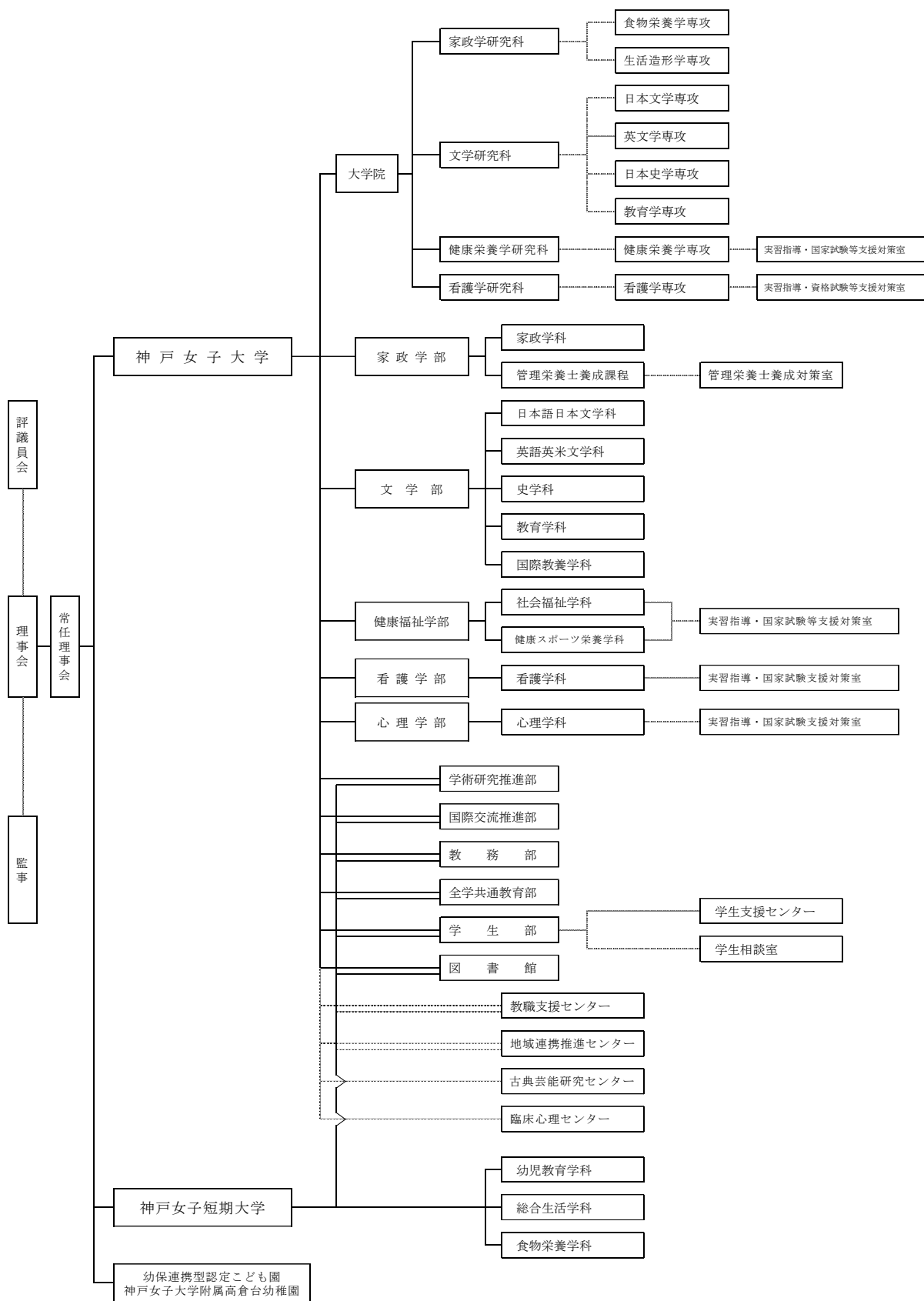
区 分	所在地	面積（㎡）	摘 要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	133,389.12	神戸女子大学専用
P I キャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (神戸女子大学附属高倉台幼稚園)	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	認定こども園専用
小 計		165,411.54	
寄宿舍（行幸寮）	兵庫県神戸市須磨区	1,998.06	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合 計		168,475.59	

（2）建 物

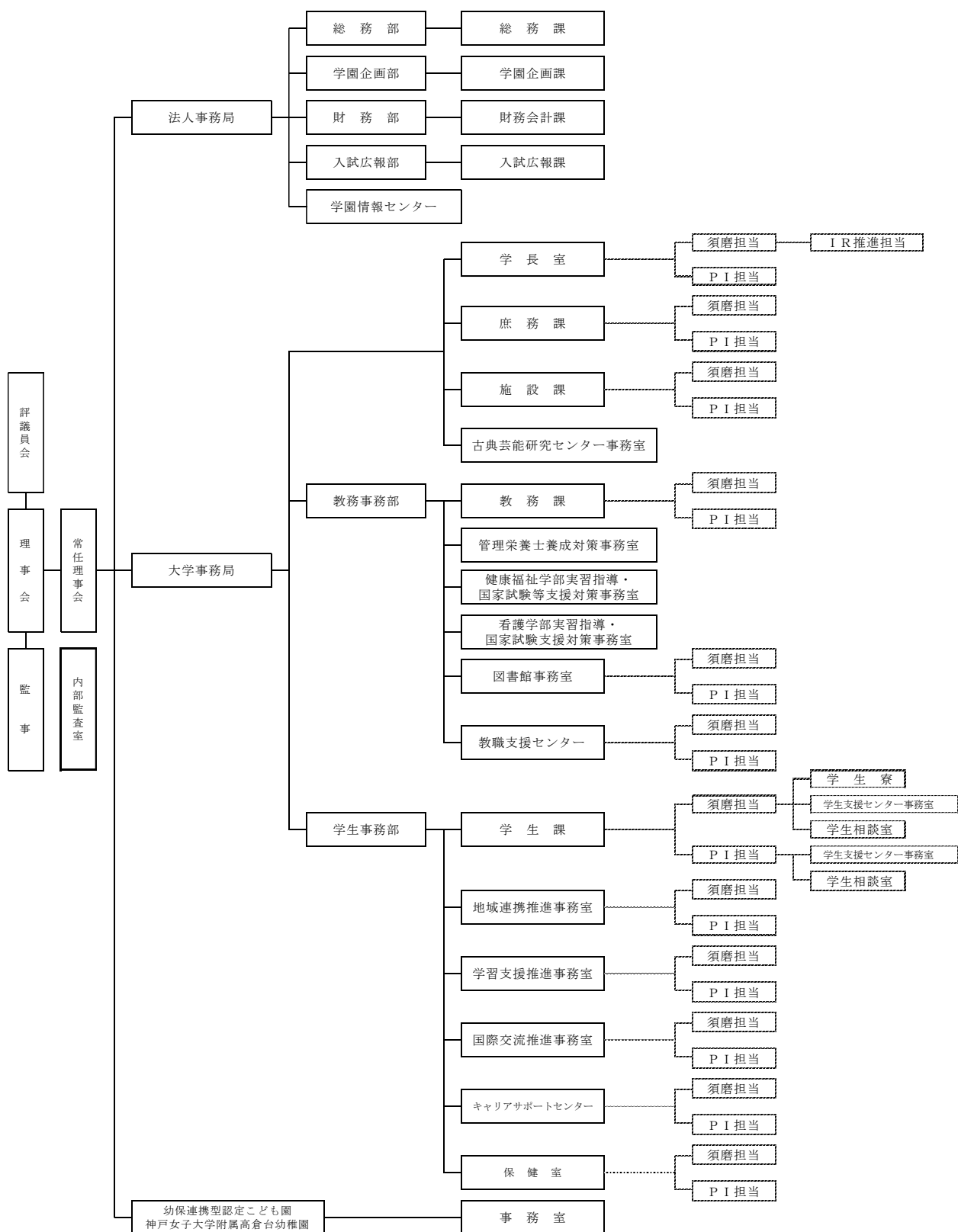
区 分		面積（㎡）	摘 要
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体 育 館	3,460.50	
	図 書 館	6,081.45	
	実 験 室	57.60	
	守 衛 室	68.76	
	ク ラ ブ 室	986.85	
	食 堂	2,115.98	
	会 館	246.80	
	小 計	39,649.68	
P I キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校 舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守 衛 室	47.93	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
	体 育 館	2,334.04	
	小 計	37,191.82	
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎（体育館を含む）	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	1,398.61	認定こども園専用
寄宿舍（行幸寮） (兵庫県神戸市須磨区)		2,882.42	神戸女子大学専用
セミナーハウス (米国ハワイ州ホノルル)		1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎 (兵庫県神戸市須磨区)		436.64	
合 計		89,719.30	

1 1 法人組織構成図（令和6年4月1日現在）

（1）教学組織



(2) 事務組織



Ⅱ 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成することを教育目標とする。これら自立心、対話力、創造性を十分に備える者として、知識・技能、能力及び資質が各学部・学科及び課程の定める基準に達しており、かつ所定の卒業要件を満たした者に、学位を授与する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程が定める人材育成・教育研究上の目的を達成するための教育課程を編成し、自立心、対話力、創造性を培う教育内容及び方法を実施する。

(3) 入学者の受入れに関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程の人材育成・教育研究上の目的に定める人材を育成するために、多様な能力を身に付けた学生を求める。

※各学科・課程、研究科ごとの方針は本学のホームページを参照ください。

2. 中期目標・中期計画に基づく令和6年度の行動計画進捗報告

I 教育・研究の充実

1. 教育内容の充実

(1) 教育内容充実をはかる仕組みづくり

- ・教務委員会にて、各学科から教育内容についての課題について報告、課題解消に向けて1年をかけて実行し、PDCAサイクル確立に向けてスタートを行った。
- ・学生生活調査での学生からの要望についての回答を、教務委員会の議題として報告し、教務委員会の情報共有を行い、各学科で協議して取り組むよう依頼した。

(2) 図書館の充実

- ・図書館ボランティアの学生たちが、館内展示やイベント企画・実施などに熱心かつ主体的に活動に参加した。
- ・ビブリオバトル関西ブロック予選会の実施運営や、参加学生の全国大会出場など、ビブリオバトル活動の活性化がみられた。

2. 教育マネジメントの確立

(1) 研究科・専攻の「三つの方針」改定

- ・内部質保証委員会大学院部会において、改定「三つの方針」の構成や盛り込むべき要素を整理した。それに応じた内容・水準を備えたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを示すことを確認した。

(2) 「教学アセスメント・ポリシー」の実質化

- ・大学の教学アセスメントに不足している課題を確認し、令和8年度からの運用開始を目指し関係部署との調整等の準備を整えた。
- ・IR データや分析成果物の学内共有簡便化を目的としたプラットフォームを設置した。

(3) 学生参画機会の拡充

- ・学生参画方針の策定および学生参画機会の拡充は、具体的な検討には至らなかった。

3. 教育環境の充実

(1) 教育環境の充実

- ・教務委員会にて、各学科から教育環境についての課題について報告、課題解消に向けて1年をかけて実行し、PDCA サイクル確立に向けてスタートを行った。
- ・学生生活調査での学生からの要望についての回答を教務委員会の議題として報告し、情報共有を行い、改善策について協議を行った。
- ・教務委員会の部会で教育環境の充実について協議し、施設課と教務部で協力して改善を行った。

4. 研究の充実

(1) 外部資金採択率の向上

- ・科研費採択支援を目的とし、令和6年8月に科研費採択支援研修会を実施し、56名の教員が参加した。
- ・令和7年度分の科研費採択件数については、大学が15件（応募51件、採択率29.4%）、短大が0件（応募1件、採択率0%）であった。令和6年度分が大学で4件（応募45件、採択率8.9%）、短大で1件（応募3件、採択率33.3%）であったことから、大学では大幅に採択件数ならびに採択率ともに増加した。
- ・外部資金の公募情報について学術研究ポータルサイトの運用を開始し、外部資金情報を集約して情報提供することで、必要な情報を簡便に得られるよう整備した。

(2) 研究成果の情報公表

- ・学内で発行する紀要および学術雑誌等に掲載された研究成果は原則公開することとした「オープンアクセス方針」を制定した。
- ・「行吉学園教育・研究助成費」の採択課題を学術研究ポータルで公開した。

(3) 研究環境の整備

- ・研究費・研究旅費の合算使用、東京都内における宿泊費上限の緩和に加え、東京都以外の主要都市における宿泊費上限緩和の申し出を行った。その結果、研究費等の合算使用ならび来年度に向けて東京都区内の宿泊費上限が変更された。

II 学生支援の充実

1 学生生活環境の充実

(1) 学生満足度の向上（学生生活調査における満足度 85%以上）

学生満足度は、「とても満足」と「だいたい満足」の合計が大学 84.1%、短大 92.1%であった。学生満足度向上のために以下の取組みを行った。

① パウダールーム等の充実に影響する設備等の充実

- ・教育後援会からの支援により女子トイレに女性用品を設置した。

② 出身地域別のコミュニティの組織化

- ・須磨キャンパスでは学友会歓迎行事で自宅外生の交流イベントを実施した。また、学生寮での交流イベントを実施した。
- ・PI キャンパスでは新入生歓迎週間を実施し、学友会・クラブ等の勧誘を行った。

③ 食環境の充実

- ・学生へのヒアリング及びどんぶりコンテスト等企画の実施、各種アンケートに基づくキッチンカーの運用調整により、利用者が増加した。

④ 学生行事の充実

- ・補助金による参加促進や、教職員の参加により交流機会を創出した。

⑤ 連絡協議会の活性化

- ・リーダー研修会へ組み込むことで、計画から運営まで学生の主体的な学びを促進した。

(2) 休退学予備軍への早期アプローチ

- ・今年度の退学率は 0.8%であった。
- ・各学科の対応状況を学生支援委員会で共有した。また、以下の取組みを行った。

① 早期介入、早期対応の調整・実践

- ・学生支援委員会において各学科での対応状況を確認するとともに、休学中の対応等、効果的な取り組みを共有した。

② クラス担任の面接強化

- ・何らかの配慮・支援を要する学生に対し、学科（クラス担任、学科主任等）及び学生課、学生支援センター、保健室、学生相談室等が連携し、重層的かつ複合的な支援を行った。

③ 外部専門機関との連携

- ・外部研修会、連絡会等への積極的な参加による学内への情報還元及び外部支援機関の新規開拓を進めた。

(3) 奨学金制度の拡充

奨学生応援型奨学金は、前年度比 6 名増の 15 名採用であった。制度拡充のために、以下の取組みを実施した。

① 学園奨学金に関する検証

- ・3 年目を迎えた新制度についてアンケートを実施し、学生支援委員会で制度内容を精査した。

② 報奨型奨学金の導入

- ・令和 7 年度からの第 2 次新制度開始に向けた細則改正について、学生支援委員会で最終調整を行った。

③外部奨学金の開拓

- ・生命保険協会との連携により、介護福祉士・保育士給付型奨学金の推薦枠を獲得した。
- ・KISS 配信による外部奨学金に関する情報提供を適宜行うとともに、個別の申請サポートを実施した。

(4) 学友会活動・クラブ活動の活性化

今年度より新たに 7 団体（44 名）が活動を開始し、新入生（大学）については、12.6%増（13.1%→25.7%）とコロナ前の水準まで回復した。短大（全学年）の加入率は 12.5%となった。しかし、加入率が高かった 4 回生が卒業した影響もあり、全学年の加入率は、（大短）は 2.1%増（12.7%→14.8%）であった。学友会・クラブ活動の活性化のために、以下の取組みを行った。

①学生交流機会の創出と拡大

- ・新入生歓迎行事に加え、須磨キャンパスではラウンジ、学生寮での新たな交流の機会を設け、同好会発足につなげた。また、PI キャンパスではスポーツ大会等において教職員がより積極的に参画することで、学生間に加え学生と教職員間の交流機会を創出した。

②クラブ・同好会活性化のためのリーダー研修の充実

- ・クラブ活性化を促進する機会としてのリーダー研修会の実施内容の精査を進め、学生のより主体的な取り組みにつなげた。

③クラブ・同好会新設への支援及び強化クラブの設定

- ・強化クラブ規程の制定に向け調整を行った。

④地域（近隣高校等）との連携強化

- ・バレーボール部において近隣高等学校との合同練習会の継続及び近隣高等学校との授業や施設活用における連携を開始した。

⑤クラブハウスの充実（環境整備）

- ・空室の活用及び環境整備における施設課との連携を行った。

(5) 学生支援センター(Shinjo Support Station)の適切な運営

- ・オリエンテーション、掲示（トイレ等）、KISS 配信、学科での紹介等により認知度向上（大学 73.3%、短大 78.5%）に取り組んだ結果、学生とセンターの接点の増加につながった。
- ・センター運営委員会の定期開催（キャンパス別開催各 7 回・合同開催 3 回）による情報共有を図るとともに、学科等との個別調整会議を実施することで、より具体的かつ適切な調整を試みた。
- ・配慮内容及びセミナー等においてアンケートを実施し、課題抽出及び学生の不安解消を図るとともに、必要に応じて次年度に向けた詳細な調整を図った。

2. キャリア支援の強化

(1) 1・2年のキャリア教育と3年からのキャリア支援との効果的な接続システムの構築

- ・3センターで連携し、1 回生向けに「キャリア・教職支援・地域連携センター見学ツアー」を実施した。

- ・2 回生後期キャリア関連授業で「課題解決プロジェクト」を実施した。須磨キャンパスは、須磨のニュータウンを題材にワークを実施、PI キャンパスは、デザイン思考の解説、「人口減少の未来」をテーマにワークを実施した。

(2) 「専門職」「総合職」就職に強いキャリア支援体制の構築

- ・各学科単位の教員とキャリアサポートセンター職員との合同会議開催を年に 3 回以上開催を目指し、学科合同開催で 5 回以上開催出来た学科もあったが、1, 2 回の開催にとどまった学科もあった。
- ・専門職就職を後押しする取り組みとして、各学科で専門職ガイダンスを実施した。
- ・2 月の学内企業説明会には、須磨キャンパスで、217 社招致（うち大企業 116 社）、PI キャンパスで 42 社招致（うち大企業 32 社）し、実施した。
- ・両キャンパス合計でハローワーク相談会 13 回、地方イベントを 3 回実施した。



(3) 外部団体や企業、地方自治体とのネットワークの拡充

- ・令和 6 年 6 月 10 日付で 15 府県目となる福井県と就職協定を締結した。
- ・企業や事業所との交流を継続し、両キャンパス合計で来校 296 社、訪問 66 社、名刺交換は来校と訪問を除き 345 社であった。

(4) 多様化する教員採用試験・学部化に伴う変化への対応

- ・情報集約と学生への情報周知体制の確立のため、運営委員会の開催に加え、Teams を活用した教職員の情報共有化、Instagram や You Tube を活用した学生との情報の共有化を積極的に進めた。
- ・教育委員会との連携強化のため、学内説明会、教職フェアを実施した。

(5) GIGA スクール構想への対応

- ・本学 OG の現職教員による教採対象者への ICT 機器活用授業の特別講義を行った。
- ・SNS 関係の外部研修会、ICT 教育研修会へ参加し、教職支援センター内で Instagram、Teams 等活用のための研修会を実施した。

(6) 「つながる」広報の未来化

- ・在学生と卒業生を「繋げる」ことを意識し、卒業生連携イベントとして教職フェア、夏のミニ教職フェア、教員採用試験対策としての 3 回生及び 2 回生への教保ワークショップ開催、卒業生ネットワークによる求人募集を実施した。
- ・YouTube での外部広報、Instagram の毎日更新（毎日、一問一答）、学内システムを活用した現役生への広報、HP への「合格ストーリー」



の掲示、LINE による卒業生教員グループへの広報、アンバサダー制度の拡充を行った。

- ・現役教員サポート体制の構築のため、電話やメールを活用して、個別的な進路相談・人生相談、各自治体の再就活支援を行った。

3. 卒業生支援

(1) 卒業生のキャリア相談体制の充実

- ・ビジュアル面も充実させ、見やすく利用しやすいようなホームページへの見直しを図った。
- ・学科別で卒業生支援担当者を決定し、卒業生が相談しやすい体制を整えた。
- ・再就職を希望する卒業生対象に S ナビ（求人紹介ページ）の登録制度を設け、利用を促す設定をした。
- ・キャリアアップを目指す卒業生支援の窓口として、企業と連携し「神女 SSCE－Sustained Career Support through Continuous Education－」を開設した。

(2) 卒業生ネットワークの拡充

- ・管理栄養士養成課程や看護学部、教職支援センターのネットワークの現状についての把握に努めた。

(3) 同窓会組織との相互理解の推進

- ・ファミリー型の入学金減免制度を大学、短大の同窓会案内にて掲載し情報発信を行った。

III 社会連携の推進

1. 学生主体の地域連携活動推進

(1) 須磨キャンパス及び PI キャンパスにおけるボランティア活動の促進

- ・須磨キャンパスでは、須磨離宮公園とのキャンパスパーク連携でのボランティア活動に 100 名以上が参加した。また、公園内の古典芸能研究センターの展示会も実施した。
- ・PI キャンパスでは、神戸市や兵庫県教委との連携事業として、神戸市内各地での民生委員活動に 36 名が参加、ふれあい中央カーニバル・まちあそびイベント等へのボランティア活動で 32 名が参加、神戸マラソンボランティアに 143 名参加して活動を行った。
- ・「神女 support」による学生の活動では、須磨離宮公園での「潮見会」カフェ営業活動、神女ポアアイボランティアセンターの夏休み宿題工作、ポートアイランド夏祭りへの参画、みなとじまクリーンプロジェクト



ト、毎月1回の子ども食堂事業、PI キャンパス内でのクリスマス会開催などの活動を行った。

2. 国際連携活動の充実

(1) 海外からの留学生及び研究者の受入れの促進

- ・6月にカリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校政治学部学生13名を2週間受け入れた。さくらサイエンスプログラムによりウダヤナ大学医学部の学生を10日間受け入れた。
- ・カセサート大学と本学との間で交換留学協定書を締結した。
- ・兵庫県海外研究ネットワーク（HORN）にて韓国の研究者（建築意匠）の招聘及びフルブライト米国人招聘講師の教員（経済学）を受入れた。

(2) 質の高い派遣プログラムの開発

- ・新たな海外の大学との交流を進めるべく、ベトナム貿易大学と協定を締結した。更にカナダダグラスカレッジとの多文化共生をテーマにプログラムを開始した。
- ・国際オンライン協働学習（COIL）を導入し、オンラインで海外の大学と授業等の開発準備については、大学全体での導入の準備には至らなかった。
- ・現在の協定校との交流内容の見直しを行った。ケント大学プログラムは武蔵大学、チェンマイ大学は京都産業大学と共同でプログラムを実施した。

(3) 国際交流活動の拡充

- ・グローバルセミナーの選定については、フルブライト米国人講師に依頼し、講義を行った。
- ・国際交流サポーター（グローバル・アンバサダー）を全学部対象に応募者を募り、カリフォルニア州立大学ポモナ校政治学部の学生受け入れの交流サポートや、留学生交流会を企画・運営した。

3. 教育・研究成果の社会還元

(1) 須磨キャンパス&PI キャンパスにおける産官学連携の推進

- ・中央区社会福祉協議会との面談、ボランティア派遣、ボランティア保険手続きにおいて連携し、ボランティア派遣数55名であった。
- ・地域連携活動報告書の作成およびホームページ上での公開を行った。

(2) 「女性活躍推進講座」の普及と促進

- ・女性活躍推進講座を今年度初めてPI キャンパスで開催し、14名申込・11名参加となった。須磨キャンパス実施時より開催内容、特に託児の内容について大幅な見直しを図り、当日はトラブルもなく開催できた。
- ・広報手段として、港島・中央区を中心としたチラシ配架と、神戸市のイベントサイトへの掲載を行った。



(3) 高校－大学間の接続、連携と交流の促進

- ・令和 6 年 4 月に兵庫県立須磨友が丘高校と協定を締結し、協定校は 5 校となった。
- ・授業連携では、本学学生が高校の授業に参加し、高校生とディスカッションしながら社会問題について考える時間を設けた。
- ・高校の課題研究のサポートとして高校生を本学に招き本学教員が高校生に対するゼミ活動を実施した。課題研究のアドバイザー派遣教員数は 86 名と昨年の 45 名を大きく上回った。

IV DX の推進

1.DX による教育の充実

(1) 教育効果を高めるデジタルツールと情報プログラムの普及と活用

- ・「教育効果を高めるデジタルツールと情報プログラムの普及と活用」の成果として、文部科学省へ申請を行い、令和 6 年度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定された。
- ・PC の必携化の 2 年目（大学のみ）となり、必携率 50%を達成した。
- ・学园内情報環境の整備の促進として、パソコン 4 台の買い増しを行った。
- ・令和 6 年度 manaba 利用率は、大学 96%、短大 91%であった。
- ・入学前 e-Learning については入学前から学籍番号を配布し、今年度は管理栄養士養成課程がレポート作成入門コースを必須に変更したことから、普及率は昨年度の 92.6%から 93.4%に上昇した。
- ・教務委員会と学生支援委員会と学園情報センター、全学共通教育部による合議で、授業出欠システム respon、ZOOM は 2024 年度末で廃止とし、新しい KISS システム授業プロダクトと Microsoft 365Teams へ移行した。manaba については 2025 年度は継続とすることとした。

(2) 「manaba」を活用した教育効果向上と「朝日新聞 e-learning」・「ライブラリーコモンズ」利用促進による基礎力向上

- ・入学後 e-Learning の普及と活用として、学習支援推進委員会を通じて「朝日新聞 e-learning」への参加者増につなげた。参加学生数 291 名【大学】271 名【大学院】5 名【短大】15 名、参加教職員 41 名、総計 332 名であった。
- ・「授業出欠システム respon」の活用実績は、出席 7,875 回、クリッカー596 回、アンケート 4,464 回、計 12,935 回であった。
- ・令和 6 年度ライブラリーコモンズの利用状況は、来室者数 8,802 名、学習支援利用者数は、須磨キャンパスは数学 83 名、理科 34 名、国語 64 名、英語 58 名、PI キャンパスは（大学）数学 2 名、国語 2 名、英語 11 名、（短大）英語 1 名、となった。

(3) 図書館における DX の推進

- ・学内紀要類のレポジトリ登録の手続きを簡素化して、学生たちが卒論作成の際に先生方の論文類をタイムリーに参照できるようになった。

2. DX による学生サービスの質の向上

(1) クラブ加入率の増加

① 情報発信の強化

- ・ホームページのクラブ紹介ページについてコンテンツ（画像、紹介文等）を更新するとともに、内容についても SNS の追記、実績紹介ニュースとのリンク等内容の充実、及び情報発信の方法について改善を図った。

② 活動しやすい環境整備

- ・顧問及び学生が共通利用できるハンドブックをリリースし、理解促進とともに顧問会議の資料として活用した。また、学友会、クラブ関係様式等、事務手続きについても、可能なものから Web 化を進めた。

(2) 食堂等の充実（キャッシュレス決済等）

① キャッシュレス決済システムの導入

- ・アンケートの結果をもとに他大学及び業者からの情報を検討した結果、両キャンパスにおいて、次年度より導入することが決定し、準備を進めている。

② 食堂等、食環境に関する情報発信

- ・食堂の利用促進及びメニューの充実を目的とした「どんぶりコンテスト」を実施し、学生の声を取り入れる機会を設けた。募集にあたっては、KISS システム及び QR コードを活用し、応募しやすい環境を整備した。また、食堂業者によるインスタグラムを開始し、利用率の向上を図った。

(3) 各種事務手続きの簡略化

① 奨学金業務の簡略化

- ・継続説明会を完全オンライン化・ペーパーレス化するとともに、学生や業務効率化への影響等を分析している。また、法人事務局との連携により BPO について検討し、次年度からの導入が決定し、運用に向けて業者との調整を進めている。

② 学生への案内の充実

- ・HP での案内等について、他大学の状況を調査分析し、順次改良すべく調整を進めた。

3. DX による業務の効率化と生産性向上

(1) 各種手続き情報のデジタル化

- ・総務部でのデータ授受業務に必要な書類のうち、利用頻度の高い書式集にある書類すべてをデジタル化した。

(2) コミュニケーションツールの利活用

- ・elgana と Microsoft 365 Teams の活用による学生への情報伝達の利便性向上を提案し、それぞれ一部学部での試行を始めた。また、メールシステムの利便性向上に向けての調査・分析を行い、Microsoft Outlook へ更新することを決定し、必要な費用の臨時予算申請を行った。



どんぶりコンテスト

あなたのオリジナルどんぶりで勝負しよう

募集期間 7月10日(水)～10月12日(土)

応募方法 ①どんぶりを試作し、写真とレシピを用意
②下記QRコードを読み取り、オンラインフォームにて応募
③レシピの材料費は500円程度を目安にしてください。

投票期間 10月21日(月)～11月8日(金)

投票方法は別途お知らせします。

表彰式 学園祭(11月16日)

先着5名にスペシャルプレゼント 優勝者へは豪華賞品

申込フォーム
食堂改善委員会 須磨キャンパス

V. 広報・募集力の強化

1.ブランディング強化と学園広報力強化

(1) ブランディング確立と学園広報力強化

- ・ブランド力向上及び認知向上のために「ロゴのマイナーチェンジ」「スクールカラーの決定」「ロゴの運用ルール」等を確定した。
- ・次年度より使用する新たなブランドイメージを表現したキービジュアルを作成した。
- ・「神戸女子大学グランドビジョン 2040」をブランディング会議において協議、策定した。
- ・SNS 広告を展開し、SNS 広告経由での OC 参加および入試出願に一定の成果が出た。
- ・HP トップページについて令和 7 年 3 月に改修を行い、4 月 1 日に公開した。



2.志願者・入学者の安定的な確保

(1) 入試ページ再構築

- ・HP の導線を見直し、最短距離で入試ページに到達する施策を行った。

3.入試制度改革

(1) 新しい総合型選抜の開発

- ・計画していたアカデミックインターンシップは実施できなかった。

(2) 高大連携開拓の促進と維持

- ・現在連携している須磨友が丘高校、須磨ノ浦高校に対し、年間を通して授業連携を実施した。

(3) 新しいチャネル開拓と入試制度の開発

- ・短大「社会人総合型選抜（AO 入試）」については前期・後期を設定し、実施した結果、2 名が合格した。
- ・カレッジスポーツ、留学生については進展させることができなかった。

VI.経営・組織力の強化

1. 財政基盤の安定化

(1) 資金収支の改善（支出抑制）

- ・経常費、臨時費、個人研究費、研究旅費、教育研究助成費のほか、人件費において支出抑制策を計画通り実行した。

(2) 保有資産の活用

- ・保有固定資産の活用を進め、天神寮を売却した。
- ・受取利息収入では、予算を上回る収入見込みとなった。

(3) 学校法人会計基準改正への対応

- ・学校法人会計基準改正に即した帳票準備、マスタ設定および令和 7 年度予算書を作成した。

2.組織力の強化

(1) 法人組織のガバナンス強化

- ・令和7年4月の私立学校法改正に向けて法人寄附行為を変更して文部科学大臣からの認可を受けた。
- ・第2次中期計画に基づく「令和6年度事業計画」の他に「学園新生計画」「速攻改革委員会タイムスケジュール」等の計画について担当理事を決めて推進する体制を構築し、推進した。

(2) 組織運営の効率化・合理化

- ・「学園新生計画」「速攻改革タイムスケジュール」に基づき業務の見直しを実施するとともに、部長を中心とした「学園新生戦略会議」を行い、課題の共有と解消を図った。

(3) 人材育成の高度化・人事体制の安定

- ・各種研修は予定通り開催できた。
- ・事務職員について新人事考課制度をスタートさせ、人事考課の自己評価導入や新しい昇格手続き(昇格試験や昇格審査等)を実施した。

3. 大学院・学部・学科等の改組、新設

(1) 文学部教育学科の学部化

- ・文部科学省への教育学部設置届出を行い、関連する免許資格の申請を行った。新たに特別支援学校教諭免許課程の申請を行い、認定された。
- ・教育学部開設に係る特設ページの開設、広告などの広報を行ったが、2025年度の入学定員充足はできなかった。

(2) 学園全体の再編および新学科設置

- ・神戸女子短期大学の令和8年度以降の学生募集停止を決定し、文部科学省へ報告した。
- ・大学については、収容定員を充足できていない学科を中心に入学定員の見直しを行った。
- ・大学院心理学研究科の設置準備を進めた。

3 特記事項

(1) 卒業生・修了者数の状況

令和6年度（9月卒業を含む）に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。
(単位：名)

区 分	学部・学科等		前 期	後 期	計
神戸女子大学大学院	家政学研究科 (博士課程)	食 物 栄 養 学 専 攻	3	1	4
		生 活 造 形 学 専 攻	0	0	0
		(小 計)	3	1	4
	文学研究科 (博士課程)	日 本 文 学 専 攻	0	0	0
		英 文 学 専 攻	0	0	0
		日 本 史 学 専 攻	1	0	1
		教 育 学 専 攻	0	0	0
		(小 計)	1	0	1
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健 康 栄 養 学 専 攻	5	—	5
	看護学研究科 (博士課程)	看 護 学 専 攻	9	1	10
	(合 計)		18	2	20
神戸女子大学	文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	52		
		英 語 英 米 文 学 科	43		
		国 際 教 養 学 科	55		
		史 学 科	43		
		教 育 学 科	120		
		(小 計)	313		
	健康福祉学部	社 会 福 祉 学 科	50		
		健康スポーツ栄養学科	51		
		(小 計)	101		
	家 政 学 部	家 政 学 科	92		
		管理栄養士養成課程	131		
		(小 計)	223		
	看 護 学 部	看 護 学 科	90		
	(合 計)		727		
神戸女子短期大学	総 合 生 活 学 科		42		
	食 物 栄 養 学 科		32		
	幼 児 教 育 学 科		21		
	(合 計)		95		

(2) 国家試験の受験・合格状況

令和6年度における国家試験（9月卒業を含む）の受験・合格状況は、以下のとおりである。

試験区分	年 度	受験者	合格者	合格率	全国合格率	全国新卒合格率
管 理 栄 養 士	令和6	128名	91名	71.1%	(48.1%)	(80.1%)
	令和5	123名	104名	84.6%	(49.3%)	(80.4%)
	令和4	122名	105名	86.1%	(56.6%)	(87.2%)
社 会 福 祉 士	令和6	46名	41名	89.1%	(56.3%)	(75.2%)
	令和5	55名	46名	83.6%	(58.1%)	(76.8%)
	令和4	66名	55名	83.3%	(44.2%)	(65.0%)
精 神 保 健 福 祉 士	令和6	2名	2名	100.0%	(70.7%)	(85.3%)
	令和5	5名	5名	100.0%	(70.4%)	(82.5%)
	令和4	7名	7名	100.0%	(71.1%)	(78.8%)
介 護 福 祉 士	令和6	16名	16名	100.0%	(78.3%)	(66.7%)
	令和5	17名	17名	100.0%	(82.8%)	(71.5%)
	令和4	15名	15名	100.0%	(84.3%)	(81.7%)
看 護 師	令和6	90名	90名	100.0%	(90.1%)	(95.9%)
	令和5	84名	83名	98.8%	(87.8%)	(93.2%)
	令和4	88名	88名	100.0%	(90.8%)	(95.5%)
保 健 師	令和6	19名	19名	100.0%	(94.0%)	(96.4%)
	令和5	20名	20名	100.0%	(95.7%)	(97.7%)
	令和4	20名	19名	95.0%	(93.7%)	(96.8%)
助 産 師	令和6	6名	6名	100.0%	(98.9%)	(99.3%)
	令和5	5名	5名	100.0%	(98.8%)	(99.3%)
	令和4	3名	2名	66.7%	(95.6%)	(95.9%)

(3) 学習支援センター等

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			P I キャンパス		
基礎科目 ミニ講座	理 科	6回 (1名)	基礎科目 ミニ講座 (Zoom)	理 科	6回 (0名)
	数 学	6回 (8名)		数 学	6回 (0名)
	国 語	6回 (27名)		国 語	6回 (0名)
	英 語	6回 (10名)		英 語	6回 (0名)
基礎科目 個別相談	理 科	週2回 (33名)	基礎科目 個別相談 (Zoom)	理 科	週2回 (0名)
	数 学	週2回 (73名)		数 学	週2回 (2名)
	国 語	週2回 (37名)		国 語	週2回 (2名)
	英 語	週1回 (48名)		英 語	週1回 (10名)

【コモンズ・サポーター主催イベント】

7月5日 シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催

12月4日 シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催

(4) 国際交流事業

アメリカ・カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校学生の短期受け入れプログラムとカナダ・ダグラスカレッジへの本学学生派遣プログラムを開始した。また、ベトナム・貿易大学と新たに協定を締結するとともに、提携大学であるタイ・カセサート大学と交換留学に関する合意書を締結した。

①海外研修プログラム等の実施状況

(単位:名)

派遣先大学・機関等	プログラム名	派遣学生数		
		大学	短大	計
ハワイ大学	セメスタープログラム（前期）	5	-	5
	英語研修（夏期）	8	1	9
	英語研修（春期）	2	0	2
ダグラスカレッジ	英語学習・文化体験プログラム	9	-	9
ケント大学	英語研修	6	-	6
フライブルク大学	ドイツ語研修	2	-	2
高麗大学	韓国語研修	11	-	11
静宜大学	中国語研修	1	-	1
チェンマイ大学	英語・タイ文化学習サービス・ラーニング・プログラム	3	-	3
クアキニ・ヘルスシステム	病院実習	2	-	2
ウダヤナ大学	短期日本語教育研修	1	-	1
	国際健康福祉プログラムⅠ	3	-	3
ドイツ・ホーエンプロイデンスシュタット病院	国際健康福祉プログラムⅡ	3	-	3
合 計		56	1	57

オックスブリッジ英語サマースクール: オックスブリッジ学生 2 名受け入れ、本学学生 22 名参加

②外部奨学金の採択状況

奨学金名称	プログラム名	金額（月額）	支給月数	人数
JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）	英語英米文学科ハワイ大学セメスター留学プログラム	80,000	3 カ月	2 名
	チェンマイ大学英語・タイ文化サービス・ラーニング・プログラム	70,000	4 カ月	2 名
文部科学省・国費外国人留学生（日本語・日本文化研修留学生）（大学推薦）		120,000	12 カ月	1 名
日本国際教育支援協会 JEES 奨学金（修学）		40,000	24 カ月	1 名

③海外からの留学生・研究者受け入れ

【留学生】

ウダヤナ大学 1 名 [国費外国人留学生 (日本語・日本文化研修留学生)] / 日本語日本文学科

【短期研修生】

カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校 13 名 / 国際教養学科

【ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 HORN 研究者交流事業】

(社) 時間空間研究所 所長 1 名 / 家政学科

【日本・アジア青少年サイエンス交流事業・さくらサイエンスプラン】

ウダヤナ大学医学部 講師 1 名・学生 2 名、バリ工科大学看護学科学生 1 名 / 社会福祉学科

【フルブライト米国人招へい講師】

ウェスタンワシントン大学 准教授 1 名 (2024 年 9 月～2025 年 7 月) / 国際教養学科

④海外提携大学等からの表敬訪問

チェンマイ大学 語学研修センター 教職員 5 名

貿易大学 経済・国際学部 教員 3 名

駐日ベトナム社会主義共和国大使館 二等書記官・教育部長

⑤研究者による講演会等の実施状況

国際教養学科・グローバル・ローカル講演会

タイトル	講演者	参加学生数
「地理及びインフラが地域貿易パターンに与える影響」	ウェスタンワシントン大学 准教授	約 50 名

健康福祉学部・国際交流セミナー

タイトル	講演者	参加学生数
アジアの糖尿病遺伝子ダイエット相互作用	ウダヤナ大学 教授	約 70 名
不眠症における認知行動療法と太極拳の比較	ウダヤナ大学 教授	
インドネシアの心臓病の現状と治療	ウダヤナ大学 講師	

アダム・ミツキエヴィチ大学学生へのオンライン講義

タイトル	講演者
The cross sectoral collaboration and public and private partnership in public policy	国際教養学科 教授

オンライン・プログラム実施状況

(単位:名)

プログラム名	実施回数	参加者学生数 (延べ)		
		大学	短大	合計
看護学部・国際なんでも聞こうカフェ	1	5	0	5
ハワイ大学日本語カンパセーション・パートナー	30	34	0	34
ケント大学オンライン・おしゃべりカフェ	1	8	0	8
合計	6	17	0	17

(5) 図書館

①図書館の充実

- ・図書館ボランティア活動の活性化およびビブリオバトル活動の推進

須磨キャンパスにおいては、「全国ビブリオバトル予選会」を学内で開催し、学生ボランティアが主体となって企画・運営を行った。また、P I キャンパスにおいても新たに学生ボランティアの募集を開始した。

- ・選書ツアーの実施と図書館だよりの発行

P I キャンパスにおいて、「選書ツアー」および「図書館だよりの発行」を開始し、両キャンパス合同で実施した。「選書ツアー」では、利用者に書店での選書体験を提供することにより、図書館の利用促進を図るとともに、学生自らが選書を行うことで、より学生のニーズに即した書籍を蔵書に加えることができた。また、「図書館だよりの発行」では、教員による読書体験の紹介、図書館活動の報告、企画イベントにおける受賞者の紹介などを通じて、読書の楽しさや価値、図書館利用の魅力を広く発信した。

②その他の活動

支出抑制の一環として、予算削減および価格高騰への対応を目的に、和雑誌購読契約の見直しや洋雑誌・データベース契約方針の策定・契約見直しを実施した。

ア 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

開館時間 (平日 19:30 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
開 館 日 数	264 日	268 日	258 日
入 館 者 数	54,735 名	40,993 名	36,130 名
貸 出 冊 数	15,178 冊	12,446 冊	11,343 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	6.3 冊	5.8 冊	6.2 冊
AV コーナー利用者数	218 名	176 名	73 名

【P I キャンパス】

開館時間 (平日 21:00 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
開 館 日 数	265 日	273 日	261 日
入 館 者 数	12,345 名	17,159 名	21,328 名
貸 出 冊 数	6,549 冊	6,764 冊	6,937 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	2.3 冊	4.6 冊	4.6 冊
AV コーナー利用者数	6 名	3 名	16 名

注) 令和 5 年度より両館とも新型コロナウイルス感染症拡大防止対策制限を解除し、通常開館を再開

イ 資料受入状況

【須磨キャンパス】

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
蔵 書 冊 数	293,338 冊	294,348 冊	294,759 冊
図 書 購 入 冊 数	1,290 冊	983 冊	671 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	1,676 冊	1,617 冊	881 冊
視聴覚資料年間受入数	57 件 (41 タイトル)	22 件 (16 タイトル)	22 件 (8 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	2,922 種	2,924 種	2,925 冊
雑 誌 年 間 受 入 種 数	266 種	248 種	208 種

注) 除籍図書：令和 4 年度 (741 冊)、令和 5 年度 (607 冊)、令和 6 年度 (470 冊)

注) 蔵書、図書購入、図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

【ポートアイランドキャンパス】

区 分	令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
蔵 書 冊 数	短大	123,944 冊	短大	125,837 冊	短大	123,021 冊
	大学	18,627 冊	大学	19,811 冊	大学	22,197 冊
図 書 購 入 冊 数	短大	1,698 冊	短大	1,218 冊	短大	905 冊
	大学	996 冊	大学	763 冊	大学	730 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	短大	1,734 冊	短大	1,303 冊	短大	1,219 冊
	大学	954 冊	大学	763 冊	大学	730 冊
視聴覚資料年間受入数	短大	42 件 (26 タイトル)	短大	31 件 (13 タイトル)	短大	4 件 (2 タイトル)
	大学	74 件 (23 タイトル)	大学	22 件 (21 タイトル)	大学	10 件 (10 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	短大	380 種	短大	686 種	短大	673 種
	大学	71 種	大学	144 種	大学	151 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	短大	186 種	短大	163 種	短大	163 種
	大学	101 種	大学	102 種	大学	97 種

注) 除籍図書：令和 4 年度 (762 冊)、令和 5 年度 (735 冊)、令和 6 年度 (4,239 冊)

注) 令和 5 年度～蔵書、図書購入、図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

ウ 地域開放利用状況

【須磨キャンパス】

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
利 用 者 数	3 名	66 名	112 名
貸 出 冊 数	5 冊	125 冊	277 冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

注) 令和 4 年度後期より新型コロナウイルス感染症拡大防止対策制限を解除し、利用再開

(6) 研究

①研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

②科学研究費助成事業の採択

大学においては、応募件数 45 件、新規採択件数 5 件、新規採択率は 11.1%であった。継続分と併せた採択件数は 53 件 (31,310 千円) であった。今後も応募件数や採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催、採択者の応募書類の公開など支援の一層の強化を図る。

短期大学においては、基盤研究(C)3 件を申請し、そのうち新規採択は 1 件であった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

【科学研究費助成事業採択状況 (大学)】

(単位：千円)

研究種目	令和 5 年度				令和 6 年度			
	件数	直接経費	間接経費	合計	件数	直接経費	間接経費	合計
基盤研究 (A)	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (B)	2	8,200	2,460	10,660	2	5,500	1,650	7,150
基盤研究 (C)	40	23,600	7,080	30,680	40	23,010	6,903	29,913
挑戦的萌芽研究	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	8	1,400	420	1,820	7	1,100	330	1,430
研究活動スタート支援	3	2,300	690	2,990	3	600	180	780
特別研究員奨励費	0	0	0	0	1	1,100	330	1,430
合計	53	35,500	10,650	46,150	53	31,310	9,393	40,703

③産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進した。

【企業等との共同研究や受託研究等の状況 (大学)】

年 度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
共同研究・受託研究 (継続含む)	10 件	10 件	10 件
技術相談受け入れ件数	0 件	0 件	0 件
特許の申請状況	0 件	0 件	0 件

【商品開発等 (大学)】

	企 業 名	内 容
1	味の素株式会社	食を通じた健康課題解決プロジェクト

④その他外部資金の採択状況

【大学】

	交付元	研究課題名
1	令和6年度 研究助成 (神戸市／大学発アーバンイノベーション神戸)	“神戸最後の前方後円墳”の実態解明と持続的保全・活用 方法の構築をめざした総合的研究
2	令和6年度 公益信託家政学研究助成基金 (公益信託家政学研究助成基金)	持続可能な社会の構築を目指した再生繊維の開発 ー 分子鎖間の樹脂架橋による親水性制御の検討 ー
3	2024年度 研究助成 (一般財団法人杉山産業化学研究所)	日常的身体活動下におけるエキストラバージンオリーブ 油による白色脂肪組織褐色化への影響
4	令和6年度 学術研究助成 (公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団)	米ぬか摂取による認知機能低下の予防効果の検討
5	令和6年度 調査・研究助成 (大麦食品推進協議会)	配合比率30%のもち麦ご飯の摂取が便通および精神的 健康、睡眠、生活の質に及ぼす影響

【短大】

	交付元	研究課題名
該当なし		

(7) 古典芸能研究センター

①刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』18号

②展示（於古典芸能研究センター展示室）

- ・「華麗なる能扇の世界～江戸時代の復元を中心に～」令和6年5月20日～6月28日
- ・「人・動物・鬼・天狗～^{いるい}異類と^{いぎよう}異形～」令和6年10月1日～11月29日
- ・「翁・千歳・三番叟～^{ことほぎ}寿の舞～」令和7年1月8日～2月21日
- ・今月の資料...12回（ホームページでも公開）

③特別講座(神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座参加)

「異類婚姻と芸能・文学」

令和6年9月30日、10月7日、28日、11月11日、25日（月曜日・全5回）

受講者数：41名

④特別企画

- ・学内古典芸能研究センターお勧めの古典芸能鑑賞 能楽

令和6年6月22日 於湊川神社 神能殿

能楽協会第36回神戸支部自主公演「あじさい能」

参加者数：12名（学生4名、教職員等5名、センター関係者3名）

令和 6 年 11 月 23 日 於湊川神社 神能殿

第 37 回照の会 神戸公演

参加者数：66 名（学生 49 名、教職員等 14 名、センター関係者 3 名）

・**一般**神戸女子大学古典芸能研究センター特別展示

写真展「季節の神々―西谷先生が訪ねた兵庫の民俗―」

会場：神戸市立須磨離宮公園内 和室（※CP 連携に基づく）

会期：令和 7 年 3 月 1 日（土）～3 月 12 日（水）【会期 12 日】

入場者数：751 名

⑤学内連携

- ・全学共通教養科目 教養総合Ⅱ「伝説・物語の神戸を歩く」との連携
- ・史学科開講 学芸員養成課程関係科目との連携
- ・国際交流推進部および国際学科実施カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校
渡日学生に対する日本古典芸能体験への協力

⑥協力・共催

- ・中央区文化センター主催「神戸女子大学古典芸能研究センターによる連続講座『伝説・物語の神戸を歩く』を読む」への協力

⑦資料出品・提供、その他

- ・国立文楽劇場令和 6 年 4 月文楽公演第 2 部「和田合戦女舞鶴」（十一代目豊竹若太夫襲名披露
狂言）の復活上演にあたり、大阪音楽大学楽器資料館旧蔵「二世鶴澤清八浄瑠璃本コレクション」が活用された。

（8）学生

国が実施する貸与奨学金及び修学支援制度（給付奨学金・授業料等減免）の諸手続きを行ったことに加え、学業及び学生生活で優秀な成果を上げ、人物として優れた学生を応援する「神女優秀者応援奨学金」や、経済的理由により学業継続が困難になった学生を支援する「神女経済支援奨学金」など、本学独自の制度により多角的に支援を行った。

また、学生表彰制度に基づき、学業や課外活動において優秀な成果を挙げた者や他の模範となった学生、団体に対して、表彰を行った。

①奨学金の採択状況

【日本学生支援機構奨学金】
(大学)

採用種別奨学生数の状況 (2025 年 2 月時点)

(単位：名)

採用種別等	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	大学院	合計	利用者の割合	学生数 R6.5.1
貸与 第一種 (無利子)	166	176	164	153	5	664	23.5%	2,828
貸与 第二種 (有利子) ※	169	175	174	156	0	674	23.8%	
第一種 第二種 併用	62	57	57	43	0	219	7.74%	
貸与採用者 (実数)	273	294	281	266	5	1119	39.6%	
給付奨学金	78	103	85	101		367	12.62%	
第Ⅰ区分	34	57	42	46		179	—	
第Ⅱ区分	18	20	22	26		86	—	
第Ⅲ区分	17	13	9	11		50	—	
第Ⅳ区分	9	11	12	17		49	—	
休止中	0	2	0	1		3	—	
給付・貸与採用者 (実数)	296	327	309	310	5	1247	44.95%	

(短大)

(単位：名)

採用種別等	1 年次	2 年次	合計	利用者の割合	学生数 R6.5.1
貸与 第一種 (無利子)	21	24	45	22.5%	200
貸与 第二種 (有利子) ※	18	16	34	17.0%	
貸与奨学金採用者 (実数)	31	32	63	31.5%	
給付奨学金	22	19	41	20.5%	
第Ⅰ区分	12	10	22	—	
第Ⅱ区分	4	5	9	—	
第Ⅲ区分	1	3	4	—	
第Ⅳ区分	5	0	5	—	
休止中	0	1	1	—	
給付・貸与採用者 (実数)	42	40	82	41.0%	

※第二種には、入学時特別増額
貸与 (一次金貸与者) を含む

【行吉学園奨学金制度・神戸女子大学大学院授業料等免除】

(単位：名)

所属	学年等	神女優秀者応援		神女経済支援		大学院 授業料等 免除制度	大学院 外国人 留学生 授業料 減免制度	西川貴子 奨学金
		優秀者 表彰型	奨学生 応援型	家計 急変型	災害 支援型			
大 学	1 回生	—	—	0	0	—	0	—
	2 回生	11	7	0	0	—	0	—
	3 回生	11	3	0	0	—	0	—
	4 回生	10	3	0	0	—	0	—
大学院	修士・博士前期	—	—	—	—	36	1	—
	博士後期	—	—	—	—	13	0	—
小計		32	13	0	0	49	1	0
短期大学	1 年次	—	—	0	0	—	—	1
	2 年次	3	2	0	0	—	—	3
小計		3	2	0	0	—	—	4
合計		35	15	0	0	49	1	4

※神女優秀者応援優秀者表彰型：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。10 万円を給付

※神女優秀者応援奨学生応援型：貸与奨学金受給者かつ学業及び学生活動で優秀な成果を上げたもの。

30 万円または 50 万円を給付。

※神女経済支援家計急変型：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料、教育施設充実費の半額を免除

※神女経済支援災害支援型：在学中に生計維持者又は学生本人が災害等の被災者となったもの。

授業料、教育施設充実費の半額を免除

※大学院授業料等免除制度：授業料の半額又は全額、授業料及び教育施設充実費の半額または全額を免除

【大学・短大関連団体の奨学金】

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付（年額）	200,000 円	2～4 年次	1 名
2	青山会（大学同窓会）		後期分授業料等	4 年次	1 名
3	かなめ会（短期大学同窓会）		授業料等の半額	2 年次	0 名

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額は、給付者の在籍学科により給付額が異なる。

②学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく令和 6 年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個 人	団 体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者（学部生）	10 名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	3 名	2 団体
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	1 名	1 団体
4	公的機関から表彰された者	—	—
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	7 名	7 団体

【短大】

表彰区分		個 人	団 体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3 名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	—	—
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	—	—
4	公的機関から表彰された者	—	—
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	—	2 団体

③学生寮の利用状況

区 分	年 度	定 員	入寮者	残 数	入居率
行 幸 寮	令 和 6 年 度	108	87	21	80.6%
	令 和 5 年 度	108	66	42	61.1%
	令 和 4 年 度	108	97	11	89.8%

※天神寮は老朽化等のため令和5年度より入寮停止（希望により退寮又は行幸寮へ転寮）

（9）保健室・学生相談室・学生支援センター

新型コロナウイルスの感染届出数は、（R5 年度：293 件、R6 年度 144 件）と、令和 6 年度は、減少した。一方、インフルエンザの感染届出数は、R6 年度増加し、保健室においても感染者への対応が引き続き求められた。

感染症対策のみならず、学生が安心して大学生活を継続できるように、健康診断、健康相談、救急対応等きめ細やかな支援を実施し、他部署との連携、協働に努めた。また、嘱託医における精神保健相談だけではなく、メンタル不調で保健室へ来室した際の相談は時間、件数ともに増加傾向である。

【保健室の利用状況（教職員除く）】

（単位：件）

	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
	2,627	2,410		1,422	1,491		1,047	1,561	
	5,037		775	2,913		487	2,608		370
学校医による健康相談	0			2			5		
嘱託医による精神保健相談	32			14			23		

学生相談室では令和4年度はコロナ禍での対応となり、電話やメール相談を含む実人数となっている。令和5年度よりコロナ禍前の集計方法に戻し、電話やメール相談を含めない実人数となっている。令和6年度の学生相談室利用状況は、須磨分室は昨年度とほぼ同じ。PI 分室の利用は大学が 1.3 倍増えた。

【学生相談室の利用状況】（保護者と教職員を除く）

（単位：名／実数）

		令和4年度			令和5年度			令和6年度		
		大学		短大	大学		短大	大学		短大
		須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数		54	20	5	39	24	3	35	32	4
		74			63			67		
相談内容 別実人数	学 業	2		0	2		0	1		0
	進 路	1		0	0		0	1		0
	心 理	70		4	61		3	64		4
	生 活	0		1	0		0	0		0
	その他	1		0	0		0	1		0

合理的配慮を要する学生については、学生支援室（学生課内）が各学部・学科及び関係部門と連携のうえ対応していたが、今年度より新たに「学生支援センター」を設立した。「神戸女子大学及び神戸女子短期大学における障がい学生支援に関する基本方針」に基づき、学びの環境を整えるべく、各キャンパスにコーディネーター及び事務職員を配置し、学内外の関係部門との連携をさらに強化することで、総合的かつ個別的な支援体制の強化を進めている。

定期的開催する学生支援センター運営委員会及び調整会議等には、関係教職員が出席し、組織的な共通認識に基づく調整により多角的、重層的に支援している。

学生を対象として、キャリアサポートセンターとの連携による「就労支援セミナー」及び「個別相談会」や、コミュニケーション能力及び自己肯定感の向上を目的とした「こころのスキルアップセミナー」など、外部支援機関との連携による各種プログラムを企画運営した。

また、FD・SDの一環として、外部講師による「学生支援研修会」を開催し、所属を問わず多くの教職員が出席し、合理的配慮への理解を深める機会とした。

さらに、バリアフリーマップを作成することで、ホームページに掲載するなど、より学びやすいキャンパスの実現に向けた取り組みを進めた。

（10）教職支援

①大学

Z世代と呼ばれる現在の学生の特性に対応するため、従来の教員採用試験対策講座や支援方法、広報手法の見直しを行い、「簡略化」及び「デジタル化」を積極的に推進した。

中でも、毎年3月末から4月上旬に全学年・全学科を対象として実施していた「教職ガイダンス」については、大幅な内容の再構成を実施した。伝達事項を絞り込み、低学年層には「大学3年生での教員採用試験受験の推奨」、4年生には「直前期の受験準備支援」を主軸とした構成とした。また、動画を活用し、短時間で要点を伝えるガイダンス形式へと転換した。これらの取り組みの成果として、昨年度より本格的に推進してきた「3年生による教員採用試験受験」において、受験者数が昨年度14名から今年度は47名へと大幅な増加となった。

さらに、今年度は「神戸女子大学教職支援センター」の認知度向上にも注力した。平日は毎日更新を行っているInstagramのフォロワー数は350名を超え、YouTubeチャンネルの登録者数も着実に増加している。これらのことにより、教職支援センターの活動が学内外に広く周知されることとなっている。

また、第3回目の開催となった「神女教職フェア」では、幼保対象自治体を一つの会場にまとめて開催したり、協同出版株式会社との広報コラボレーション企画を実施するなど、毎回内容をバージョンアップさせてきた。参加する自治体、教育委員会や学生にとって、常に新鮮で魅力的なイベントとなるよう工夫をして開催した。

【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
認定こども園	22		33	1	38		38		28	1
幼稚園	6	1	6		2		2		3	
小学校	46	16	52	13	50	18	38	11	43	8
中学校	5	5	6	6	10	5	11	8	17	7
高等学校		4	2	4	2	1	3	5	3	1
特別支援学校										
養護教諭		4				2		3		1
栄養教諭		5	1	2		3		2	1	1
教員計	79	35	100	26	101	29	92	29	95	19
保育所・施設等	35		36	3	31	1	20		11	1

*令和 2～5 年度は文部科学省教員免許状取得状況調査の報告分、令和 6 年度は 4 月 14 日現在

*認定こども園：幼稚園型認定こども園及び幼保連携型認定こども園

*大学院、専攻科を含む

【大学 公立学校教員・保育士等採用試験の合格者数（新規卒業者）】（単位：名、延べ数）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
幼稚園・保育所等	23	29	16	20	23
小学校	99	104	102	89	104
中学校	6	8	22	15	31
高等学校		2	2	3	3
特別支援学校					
養護教諭					
栄養教諭		1			3
計	129	144	142	127	164

*大学院、専攻科を含む

②短大

短大では、幼児教育学科 1 年生に対し、就職までのスケジュールや、就職先の選定方法の説明などを前期のカレッジアワーで実施した。早い時期から就職に対する意識付けができるよう、1 年生の前期と 2 年生になる直前の春休みに全員と個別面談を行い、公立幼保就職促進及び就職支援強化を図った。また、学科教員協力のもと教職支援センターの利用を促していただき、各自治体の説明会やフェアへの参加を促すなどの支援を行った。さらに、カレッジアワー等を活用して教職ガイダンスを実施し、学生からの要望により、面接練習及び身だしなみ指導等も行った。公立幼保採用試験の 1 次合格 1 名、最終合格は 1 名であった。

7 月 16 日（火）の 1 年生のカレッジアワーにて、幼児教育学科主催のもと、教員と協力して近隣の自治体及び団体を招き「保育士就職セミナー」を行い、各地域の保育の内容や、就職状況等をお話ししていただいた。1 年生からの就職フェアへの参加や園見学などに繋がっている。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中 学 校	0	3	0	1	—	—	—	—	—	—
公立保育所	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
私立保育所	8	0	8	0	9	0	6	0	4	0
公立幼稚園	1	0	1	1	2	0	0	0	0	1
私立幼稚園	14	0	14	1	4	0	6	0	6	0
公立こども園	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0
私立こども園	33	0	33	0	18	0	20	0	8	0
施 設	3	0	3	0	0	0	1	0	0	0
児童館、学童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	60	4	60	4	34	2	34	0	18	1

(11) 就職支援

①大学

大学の令和7年4月15日現在の就職率は98.4%、進路決定率は95.3%である。昨年同時点と比べ就職率は0.9%、進路決定率は1.6%改善した。企業の採用意欲は年々高まっており、高い水準を維持することができている。学生対応については対面とオンラインを併用して実施し、きめ細かい支援を行った。

②短大

大学の令和7年4月15日現在の就職率は98.8%、進路決定率は95.8%である。昨年同時点と比べ就職率は0.4%、進路決定率は1.3%減少した。

学内企業説明会を対面とオンラインで実施し、学生の進路決定に役立てることができた。SPI対策講座をオンライン講座で実施することで、学生の利便性を高めた。

大学、短大ともに、未内定の卒業生に求人情報の提供、相談等の支援を行っている。

※「令和7年4月15日時点 卒業生の進路状況速報」を巻末に掲載している

(12) 入試広報

①高大連携開拓の促進と維持

現在連携している高校に対し、年間を通して授業連携を実施した。内容は講義や実習を中心に、探究学習の指導や部活動関連など様々であった。中には本学の学生が同行した授業もあり、一方通行の連携から一歩進んだ意義のある連携となった。また、この他に分野別説明等でも教員を派遣した。

<令和6年度実績>

- ・ 講義・実習 40 件
- ・ 探究学習関連 13 件
- ・ 分野別説明 3 件
- ・ キャンパス見学 1 件
- ・ 部活動関連 1 件

②就職・OG 情報掲載ウェブサイト／各学科と連携したウェブマガジンの充実

社会で活躍する卒業生や有名企業に内定した 4 回生を紹介するウェブサイト「Career Palette」の立ち上げから 2 年目となった今年度は、各学科総勢約 20 名を追加掲載することができた。また各学科の学生の取り組みを特集しているウェブマガジン「Shinjo Mag」も約 20 記事を追加投稿した。各学科およびキャリアサポートセンターと連携することで、ウェブサイトの充実につながった。

(13) 収益的事業

①オープンカレッジ

大学の知的財産を地域社会へ還元することを目的としたオープンカレッジは、ミドル・シニア世代を対象に文学・歴史・語学を中心とした教養講座や、シニア世代に必要な健康講座を開講しており、人生 100 年時代の生涯学習の場として、また高齢者の社会的孤立を防ぐための居場所となるべく様々な講座を展開している。受講者数（年間）延べ 2,103 名、収益は 6,775 千円（前年比 1,862 千円増）となる。

②貸室（教室・体育館等）

主に英検等の試験会場や学会・研究会、また地域のイベント会場として施設を貸出している。また夜間はこども育成を支援するため、ダンスの練習場として体育館を貸与している。総収入は 3,719 千円（前年比 700 千円増）となる。

③卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（一部食堂業者が設置するものを除く）においては、昨今の物価高騰のなか、手数料を下げることで販売価格を調整しており、またウオーターサーバー導入の影響も受け、減収となっている。貸衣裳（袴）の紹介手数料は、前年度より学生数が減少しているため、収益は減少しているが学生の利用率は上がっている。寄付金とは下宿紹介に伴う家主及び管理会社からの寄付である。その他含め次のとおりである。

・ 自販機手数料	316 千円（前年比	151 千円減）
・ 貸衣裳紹介手数料	2,639 千円（前年比	94 千円減）
・ 自動車教習所紹介	95 千円（前年比	20 千円減）
・ 寄付金	325 千円（前年比	295 千円減）

(14) 幼稚園

①在園児数

（令和 6 年 5 月 1 日現在）

区 分	クラス	在園児	入園児	合 計
0 歳児	1	—	2 名	2 名
1 歳児		2 名	1 名	3 名
2 歳児(満 3 歳児を含む)	1	3 名	7 名	10 名
3 歳児	2	18 名	21 名	39 名
4 歳児	2	43 名	4 名	47 名
5 歳児	2	41 名	1 名	42 名
合 計	8	107 名	36 名	143 名

②子育て支援

ア 0～2歳児クラスの保育内容及び環境を整備するとともに子育て支援の充実を図る。

イ にこにこクラブ（兵庫県補助対象事業）

未就園児の親子を対象として、毎週月・火・金曜日に実施している。火曜日は教育実習の一環となっている。

i 幼稚園での生活に向けて、安定した母子分離を図る。

ii 幼児及び保護者の交流を深め、情報交換の場とする。

ウ ぴよぴよサロン

0～1歳児の親子を対象に月2回（年間19回）実施した。保育室を開放し、ゆったりした時の中で保護者同士が自由に語り合う交流の場となった。育児相談も必要に応じて行っている

エ みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）

未就園児が幼稚園の教育及び保育を体験しながら交流を深めるとともに、安定した家族関係をつくることを目的として実施している。

未就園児親子登園日（68回） 教育相談（16回） 母親教室（1回） 園庭開放（24回）

オ 園庭開放

第1・第3水曜日（14:00～16:00）、地域の親子を対象に園庭を開放している。

カ 預かり保育（1号認定児）

ほぼ毎日、7:30から保育開始まで及び保育終了後から19:00まで実施している。

延べ利用日数 236日 延べ利用人数 3,973名

キ カウンセリング（兵庫県補助対象）

年間6回、学校心理士によるカウンセリングを実施し、発達の気になる園児や子育てに不安を抱える保護者への継続的なケアを行っている。

③地域との関わり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身に付けている。

- ・シルバーカレッジの方との交流・連携
- ・高倉台一人暮らしの方のクリスマス会への参加
- ・保・小・中学校との交流・連携
- ・トライやるウィークの中学生受け入れ

④施設の充実

通園バス1台の更新

バスの老朽化に伴い、保護者のニーズを踏まえて住宅地の中に入りやすい小型バスに更新した。



Ⅲ 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	28,458,944	28,711,988	28,094,320	28,237,598	28,285,386
流動資産	6,994,230	6,530,537	6,251,490	4,753,017	3,233,966
資産の部合計	35,453,174	35,242,525	34,345,810	32,990,615	31,519,352
固定負債	1,505,848	1,523,196	1,522,862	1,545,305	1,648,917
流動負債	1,056,590	1,089,288	986,676	874,455	846,389
負債の部合計	2,562,438	2,612,484	2,509,538	2,419,760	2,495,306
基本金	45,459,594	45,855,501	45,999,448	46,126,682	45,643,429
繰越収支差額	△ 12,568,858	△ 13,225,460	△ 14,163,176	△ 15,555,827	△ 16,619,383
純資産の部合計	32,890,736	32,630,041	31,836,272	30,570,855	29,024,046
負債及び純資産の部合計	35,453,174	35,242,525	34,345,810	32,990,615	31,519,352

イ) 財務比率の経年比較

比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	163.7%	169.7%	163.8%	149.2%	142.1%
流動比率	662.0%	599.5%	633.6%	543.5%	382.1%
総負債比率	7.2%	7.4%	7.3%	7.3%	7.9%
前受金保有率	737.0%	705.5%	763.3%	737.7%	473.8%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.3%	100.0%	100.0%
積立率	49.4%	50.1%	48.6%	41.5%	38.4%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	5,299,372	4,897,137	4,512,189	4,178,643	3,779,840
手数料収入	74,502	77,217	66,199	59,264	55,936
寄付金収入	22,561	4,873	20,083	5,195	4,125
補助金収入	789,897	940,913	830,377	812,406	775,762
資産売却収入	62,500	125,000	125,000	225,000	1,868,885
付随事業・収益事業収入	68,410	104,879	94,949	66,550	77,059
受取利息・配当金収入	15,399	29,817	29,503	24,909	41,167
雑収入	428,638	306,643	299,567	310,158	327,860
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	891,196	883,081	784,726	614,190	625,824
その他の収入	2,810,774	2,090,151	1,855,450	1,571,628	1,474,973
資金収入調整勘定	△ 1,363,719	△ 1,168,654	△ 1,123,505	△ 993,511	△ 869,036
前年度繰越支払資金	7,667,919	6,568,362	6,230,228	5,989,731	4,530,671
収入の部合計	16,767,449	14,859,419	13,724,766	12,864,163	12,693,066

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	4,024,590	3,861,593	3,943,446	3,986,314	3,890,128
教育研究経費支出	1,532,409	1,410,367	1,480,513	1,493,133	1,296,451
管理経費支出	488,373	667,641	550,281	560,749	492,933
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	77,512	242,491	56,514	62,745	62,824
設備関係支出	96,128	170,517	90,168	64,943	44,310
資産運用支出	2,428,821	929,576	332,578	1,008,109	2,700,000
その他の支出	1,664,129	1,488,384	1,428,507	1,364,572	1,443,083
資金支出調整勘定	△ 112,875	△ 141,378	△ 146,972	△ 207,073	△ 201,898
翌年度繰越支払資金	6,568,362	6,230,228	5,989,731	4,530,671	2,965,234
支出の部合計	16,767,449	14,859,419	13,724,766	12,864,163	12,693,065

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	6,666,557	6,331,190	5,823,363	5,432,217	5,010,579
教育活動資金支出計	6,045,373	5,939,600	5,974,237	6,040,198	5,679,512
差引	621,183	391,588	△ 150,874	△ 607,981	△ 668,931
調整勘定等	△ 264,705	146,095	△ 54,741	△ 69,217	△ 32,845
教育活動資金収支差額	356,478	537,683	△ 205,615	△ 677,198	△ 701,776
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	316,822	300,472	300,000	0	116,385
施設整備等活動資金支出計	473,639	713,008	446,683	127,688	107,134
差引	△ 156,818	△ 412,536	△ 146,683	△ 127,688	9,251
調整勘定等	1,889	1,287	△ 3,176	△ 289	694
施設整備等活動資金収支差額	△ 154,929	△ 411,249	△ 149,859	△ 127,977	9,945
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	201,549	126,434	△ 355,474	△ 805,175	△ 691,831
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,370,448	1,538,248	1,432,495	1,581,114	3,069,855
その他の活動資金支出計	3,671,556	2,002,816	1,317,519	2,234,999	3,943,460
差引	△ 1,301,107	△ 464,568	114,977	△ 653,886	△ 873,605
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 1,301,107	△ 464,568	114,977	△ 653,886	△ 873,605
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 1,099,557	△ 338,134	△ 240,497	△ 1,459,061	△ 1,565,437
前年度繰越支払資金	7,667,919	6,568,362	6,230,228	5,989,731	4,530,671
翌年度繰越支払資金	6,568,362	6,230,228	5,989,731	4,530,670	2,965,234

ウ) 財務比率の経年比較

比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	5.3%	8.5%	△3.5%	△12.5%	△14.0%

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	5,299,371	4,897,137	4,512,189	4,178,643	3,779,840
	手数料	74,502	77,217	66,198	59,263	55,936
	寄付金	22,561	4,873	20,083	5,195	4,125
	経常費等補助金	773,075	940,441	830,377	812,406	765,762
	付随事業収入	68,409	104,879	94,949	66,550	77,058
	雑収入	435,144	306,643	299,567	310,159	327,860
	教育活動収入計	6,673,062	6,331,189	5,823,363	5,432,216	5,010,581
	事業活動支出の部					
	人件費	4,064,676	3,878,941	3,943,112	4,008,756	3,929,406
	教育研究経費	2,162,113	1,998,167	2,089,385	2,095,339	1,877,419
	管理経費	549,617	732,294	613,202	620,793	539,013
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	6,776,406	6,609,402	6,645,699	6,724,888	6,345,839
	教育活動収支差額	△ 103,344	△ 278,213	△ 822,336	△ 1,292,672	△ 1,335,258
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	15,399	30,153	29,839	25,244	41,419
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	15,399	30,153	29,839	25,244	41,419
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	15,399	30,153	29,839	25,244	41,419
経常収支差額		△ 87,945	△ 248,060	△ 792,497	△ 1,267,428	△ 1,293,839
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	3,474	385
	その他の特別収入	19,802	3,563	2,720	6,135	12,283
	特別収入計	19,802	3,563	2,720	9,609	12,668
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	4,057	16,198	3,991	7,599	265,638
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	4,057	16,198	3,991	7,599	265,638
	特別収支差額	15,745	△ 12,635	△ 1,271	2,010	△ 252,970
基本金組入前当年度収支差額		△ 72,200	△ 260,695	△ 793,768	△ 1,265,418	△ 1,546,809
基本金組入額合計		△ 163,031	△ 395,907	△ 143,947	△ 127,234	△ 81,000
当年度収支差額		△ 235,231	△ 656,602	△ 937,715	△ 1,392,652	△ 1,627,809
前年度繰越収支差額		△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460	△ 14,163,176	△ 15,555,827
基本金取崩額		0	0	0	0	564,253
翌年度繰越収支差額		△ 12,568,858	△ 13,225,460	△ 14,163,175	△ 15,555,828	△ 16,619,383
(参考)						
事業活動収入計		6,708,263	6,364,905	5,855,922	5,467,069	5,064,668
事業活動支出計		6,780,463	6,625,600	6,649,690	6,732,487	6,611,477

イ) 財務比率の経年比較

比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	60.8%	61.0%	67.4%	73.5%	77.8%
教育研究経費比率	32.3%	31.4%	35.7%	38.4%	37.2%
管理経費比率	8.2%	11.5%	10.5%	11.4%	10.7%
事業活動収支差額比率	△1.1%	△4.1%	△13.6%	△23.1%	△30.5%
学生生徒等納付金比率	79.2%	77.0%	77.1%	76.6%	74.8%
経常収支差額比率	△1.3%	△3.9%	△13.5%	△23.2%	△25.6%

2. その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	当年度（令和7年3月31日）		
	貸借対照計上額	時価	差額
債 券	1,700,000	1,617,222	△ 82,778
株 式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	2,100,000	2,096,780	△ 3,220
そ の 他	—	—	—
合 計	3,800,000	3,714,002	△ 85,998
時価のない有価証券	1,438		
有価証券合計	3,801,438		

(2) 借入金の状況 該当なし

(3) 学校債の状況 該当なし

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
寄付金収入	22,561	4,873	20,083	5,195	4,125
特別寄付金収入	7,138	1,933	18,108	3,415	3,200
教育研究特別寄付金収入	2,242	988	16,108	3,215	3,200
施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
奨学研究助成金収入	600	0	0	0	0
公募研究助成金収入	4,296	945	2,000	200	0
一般寄付金収入	15,423	2,940	1,975	1,780	925
一般寄付金収入（保証人）	580	470	610	560	30
個人寄付金収入（その他）	10,493	1,665	965	870	495
法人寄付金収入（その他）	4,350	805	400	350	400

（５）補助金の状況

（単位：千円）

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
補助金収入	789,897	940,914	830,377	812,407	775,761
国庫補助金収入	722,985	726,466	641,956	619,660	591,393
国庫補助金収入（教）	486,010	499,793	429,929	413,074	389,544
国庫補助金収入（施）	12,130	0	0	0	10,000
授業料等減免費交付金	224,845	226,673	212,028	206,586	191,849
地方公共団体補助金収入	66,912	35,165	37,018	44,790	35,367
地公体補助金収入（教）	62,220	34,693	37,018	44,790	35,367
地公体補助金収入（施）	4,692	472	0	0	0
施設型給付費収入	0	179,282	151,403	147,956	149,002
学術研究振興資金収入	0	0	0	0	0

（６）収益事業の状況 該当なし

（７）関連当事者との取引の状況

 ア）関連当事者 該当なし

 イ）出資会社 該当なし

（８）学校法人間財務取引 該当なし

３．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和６年度における事業活動収入は、学生数前年比「△271名」による学生生徒等納付金「399百万円」の減少、経常費等補助金「46百万円」の減少等により、前年比「△402百万円」となった。

事業活動支出は、人件費が前年比「△80百万円」、教育研究経費が前年比「△218百万円」、管理経費が前年比「△82百万円」、資産処分差額が前年比「+258百万円」となったことにより、「122百万円」の減少となった。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は「△1,546百万円」となり、前年比「△280百万円」の赤字基調となった。基本金組入額は「△81百万円」、これにより当年度収支差額は「△1,627百万円」の支出超過となり、前年比では「△234百万円」となった。

令和７年度の学生募集は、大学が入学定員「930名」に対して入学者数「608名」、短期大学が入学定員「120名」に対して入学者数者数「111名」となり、全体の学生数は前年比「△153名」となった。学生数の減少が直接収支に影響しており、令和７年度予算においては更なる支出抑制に取り組んでいる。人件費関係では引き続き「賞与支給率の見直し、管理職手当の減額」を行い、経常費についても前年度「△10%」から更に「△5%」の削減を行っている。また、「臨時費・研究費」は前年度と同様に「△50%」の削減を行い支出の抑制を図っている。

令和7年4月15日時点 キャリアサポートセンター

* 卒業予定者数には、令和6年9月30日に卒業した者も含まれております。
* 臨時教員登録希望者は、配属先決定者のみの数字です。
* 「栄養教諭」については暫定的に小学校(本採用)に分類しています。
* 「その他」とは、就職・進学・家事従事等希望なし、公務員・教員再受験希望なし、アルバイト・留学希望者等の数字です。

進路が決まっているが、キャリアサポートセンターまたは教職支援センターに
未届の学生がおりましたら、届出るようご案内ください。



Y U K I Y O S H I
I N S T I T U T E

「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp>

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713